## 3 職種協働による包括的な全国労働衛生週間の取組み

ガイドラインステップ	キーワード	<b>-</b> 5	•
産衛誌産業保健生涯教育ガイド		-9	•
ラインの 16 ステップから該当 番号を記入(複数可)。	(6つ以内)	-16	•

T 社はこれまで外資系企業として、日本の法律を遵守しながらも、産業保健活動に関しては米国親会社が推進するプログラムに軸足を置いた活動を展開してきた。

改善・取組みの背景と課題

2012 年に親会社との資本関係に変更があったことから、産業保健活動についても、従来よりは個々の事業場に根差した自主的な産業保健活動を展開するようになっている。この環境の変化において、全国労働衛生週間は、労働衛生に関する事業場及び労働者の意識を高揚させる手段として有効であり、この期間を活用した取組みを実施したので報告する。

産業保健活動を展開するにあたり、事業場幹部と従業員双方による活動への理解と積極的な関与が不可欠である。事業場の代表者である事業場幹部が健康に関心を持ち、従業員の健康に対して積極的な関心を表明することで、事業場における労働衛生の高揚につながると考えた。

改善・取組 みの着眼点 また、T 社では産業医、産業看護職、インダストリアルハイジニスト(以下 IH)の3職種がそれぞれの専門性を発揮し連携しながら産業保健活動を展開しており、この特徴を活かしつつ3つのプログラムを全国労働衛生週間期間中に実施した。

改善・取組みの概要

取組み 1)事業場幹部層への健康に関するインタビュー:事業場幹部層へ個別にインタビューを実施した。個々人の健康への思いや、健康のために行っていること、従業員へのメッセージ等をポスターにまとめ、期間中に各職場での掲示、回覧を実施した。

取組み 2) ヘルシーメニュー提供:社員食堂運営を委託している業者と連携し、日替わりで「食物繊維たっぷり」「1 日に必要な野菜量の半分が摂れる」などの PR ポイントを設定してヘルシーメニューを提供した。

取組み 3) 喫煙所パトロール:事業場では完全分煙を規定しているものの、分煙効果が不十分な喫煙所も散見されていた。本取組みでは、各喫煙所周辺の環境測定と受動喫煙防止の啓発活動としてのポスター掲示、従業員への受動喫煙に関するインタビューを実施した。測定結果については安全衛生委員会および各職場に報告し分煙の徹底を図った。

左:取組み1)事業場幹部層への健康に関するインタビューポスター

右上:取組み2)ヘルシーメニューのPR、右下:取組み3)喫煙所パトロールの結果報告









取組み 1)事業場幹部層、従業員層双方から高い関心を得た。事業場幹部から明 確に健康への関与が表明されたことで職場での健康への関心の向上に繋がったと考えら れた。

#### 効 果

取組み 2) 売れ行きは好調で、アンケート結果でも、「美味しかった」との回答が 50%以 上得られ、次いで「継続して実施して欲しい」との回答が多かった。その他、健康という視 点から食事を考えるきっかけになったとの声も寄せられた。

取組み 3) 分煙が不十分な筒所に改善方法を具体的に助言することで分煙がより徹 底された。

# この GPS の 経験から学

産業保健活動の展開にあたり事業主の理解と関与は必要不可欠である。全国労働衛 生週間は行政が主導していることもあり、取組みへの事業場幹部、従業員双方からの 理解が得られやすく、注目度も高い。全国労働衛生週間を活用することが、産業保健 活動を推進することにつながる。

# ふことができ るポイント

T 社の特徴である産業保健専門職 3 職種がそろっている点を活かし、それぞれの専門 性を発揮しつつ連携することで、期間中の一連の取組みを有意義に展開できた。

一方で、取組みの有効性の評価方法の検討が今後の課題として残った。これらを事前 に検討したうえで、有効性を検証し新たな産業保健活動につなげていくことが重要であ る。

### 参考資料

投稿者	藤田周弥	e-mail	2014年 9月22日